

2020年4月18日

公述人7番です。公文書を録画しています。

今度は、2万5千分の1の地形図を録画しています。こちらは山梨県の手ヶ岳の地図を録画しています。

今度は、個々に入っていきますと、(この表は)身延町に中部横断道の六郷から南部の区間において、町内で残土処理される量です。まず、1番に江尻窪(えじりくぼ)、2番に下山(しもやま)、3番に栗倉(あわくら)です。1番の江尻窪は約200万立方メートル、2番の下山は約400万立方メートル、3番の栗倉は約150万立方メートルの、中部横断で発生したトンネルの岩ずりなどを処分する予定です。

なお、1番の江尻窪では既に平成27年9月から開始し、現在までに約40万立方メートルの残土処理が行われています。その江尻窪ですが、このような様子です。この写真は今年の1月5日に撮影した江尻窪の様子です。ここが江尻窪で、中部横断で実際に土砂を埋めているところです。そして、その近くに、私が確認したのですが、オオタカの営巣地がありました。ここにオオタカの巣があるのですが、それが残念ながら、平成28年3月に私が確認したのですが、現在は荒れ果てて朽ち果てています、その巣は。だから、ここでは現在オオタカの営巣は確認されていません。

同じく、平成28年3月時点、同じ日付ですが、拡大してみますとこのような様子で、モミの木の枝にオオタカの営巣が確認されていました。これが、江尻窪地先です。

今度は2番目の下山地先ですが、この写真は昨年6月現在のものですが、下山遊水池というところに約400万立方メートル、長さ約2,000メートル・2キロメートル、幅約200メートル、高さ平均すれば約10メートル、これ(残土)はすごく高いです。ここにダンプカーが見えるのですが、このダンプカーは高さ4,5メートルありますが、それに比べますと非常に高い。私は10メートルと約束したのですが、2,30メートルありますから、この400万立方メートルももっと、たくさんにのぼるかもしれません。

そもそも、下山遊水池というのはどのようなところだったかといいますと、元々は富士川の遊水池であって、国から農耕者が占用を受けて水田として耕作していました。それを中部横断道の残土を埋めるために、町が補償して農作物を耕作していた耕作者に補償料を払って占用解除した暁に、この下山遊水池に土砂、中部横断道の残土を運んだということです。

現在、このような形で、このビニールシートは重金属含有土砂が含まれているところなので、雨風が中に入らないように、ブルーシートが被されています。一

方、こちらのほうは、ブルーシートがないのですが、それは重金属が含まれていないからということで、野晒しのままで仮置き、もしくは、最終までこのような形で残ると思います。

3番目に栗倉というところがあるのですが、これは身延町の栗倉なのですが、元々早川の遊水池のところ、長さ500メートル、幅約150メートル、高さが20メートルで、計算しますと約150万立方メートルの土砂が置けるということになります。これが早川上流から見た、早川橋から見た様子です。ビニールシートを被せてあるのが、所謂自然由来の重金属が含まれている土砂を封じ込んでいるところ。こちらのほうは野晒しですから重金属が含まれていない、という具合です。

このような感じで、今度は場所が変わって、今度は下流から見た栗倉の状態です。これは、今年の4月11日現在です。最近の新しい写真です。こちらの1つ前の栗倉の写真は、昨年6月現在の古いものになっています。

先程江尻窪のオオタカのことを言いましたが、今度は私が実際に見たJR波高島駅の近くに、やはりオオタカの死骸がありました。ここに丸い印で囲んでありますが、ここでオオタカの死んだものを確認しました。

これがその拡大写真です。平成28年11月に撮影した状態です。残念ながら、オオタカがこのような具合でアスファルト舗装の歩道の上に死んでいました。何故かという、ここに透明の亚克力板があるのです、JR身延線を跨いでいる跨線橋に。それにオオタカが餌を、獲物を追いかけていたときに、この透明の亚克力板に直接ぶつかってしまったということで、脳震盪を起こしてやがて死んでしまったというようなことが想像されます。バードストライクと言われている現象です。

オオタカであるとか、クマタカなどの羽を現地で拾ってみました。拾った羽がこのような具合です。1番がオオタカ、2番がクマタカ、3番がフクロウ、4番がヤマドリ、すなわちキジです。実際にはこのような画像です。1番がオオタカ、初列風切羽（しよれつかぜきりばね）、2番がクマタカの大きな羽、ちょっと大きな羽ですから遠くから見るとこのような具合です。3番がフクロウ、4番がヤマドリ、すなわちキジです。このような具合で、山や道路を歩いていくとこのようなものが拾えます。なお、3番目のこのフクロウは、夜、恐らく車の照明にぶつかって、車と衝突して残念ながら、フクロウが命を落とした、それが道路の脇にあったので、その羽を拾ってみました。これは、フクロウの死骸からとった羽です。風切羽です。

次の図面に移りますと、これが身延町全図です。私が確認したのが、このオレンジ色が中部横断道で、増穂から六郷インターまでは、供用開始しています。一点鎖線のオレンジ線は、これから供用開始される予定です。波高島一下部温泉一

早川インターから南部インターまではまだ工事中です。北のほうには、チョウゲンボウが旧中富町、先程言ったオオタカが江尻窪で、確認しております。先のクマタカの羽はここで私が拾ったものです。多分、この範囲がクマタカの縄張り地区だと思います。フクロウの死骸は、国道300号線で、フクロウの死骸が確認されており、オオタカもここで、バードストライク、JR 身延線波高島駅のアクリル板にぶつかってしまったところです。この下のほうの1～5カ所は猛禽類生息地ということで、文献等で示されております。なお、参考ながら、身延山はブッポウソウが有名ですが、身延山の奥の院久遠寺と、そして門前の山門の近くはブッポウソウの営巣地だということです。

先程の残土処理場の図面を重ねてみますと、江尻窪の残土処分地、栗倉の残土処分地、下山の残土処分地、残念ながら、江尻窪の残土処分地は、オオタカの営巣地と重なって、バッティングしているものですから、オオタカが営巣を放棄してしまった場所ということになります。そして、栗倉の残土処理場が、この3番目。下山遊水池の残土処分場はここ。中部横断道はこのような感じでルートがあります。

続きまして、今度は、所謂今回の環境アセスメントの八ヶ岳から長野県の川上村のほうに通ずる計画路線です。このピンクが計画路線です。オレンジが中部横断の南部区間で、身延町や南部町を工事しているところです。思っているのは、たまたま発生するのが自然由来のセレン、ヒ素、フッ素などの自然由来の重金属が出現してしまいます。トンネルの掘削ずりの中から往々にして出現します。例えば、平成25年11月18日、南部町根岸沢川でセレンが基準値(0.01mg/L)を超えたことが報道されました。続いての例は、NEXCO 中日本が発表したもので、平成28年2月16日に、ヒ素が南部町森山トンネルの中から検出されました。これは、NEXCO 中日本の施工範囲です。ヒ素は 0.011～0.042mg/L と基準値 0.01mg/L をかなりの濃さで超えてしまいました。一方、JR 東海が、リニア新幹線を早川町内で今施工していますが、その中の雨畑仮置き場でもフッ素が基準値 0.8mg/L を超えてしまったということが、平成29年4月に報道されています。当八ヶ岳南麓に、今回新しく、中部横断北部区間が計画されていますが、この特徴としては、八ヶ岳は、第四紀世八ヶ岳火山岩、所謂安山岩質溶岩が主な地質です。表面の土壌は、八ヶ岳の火山灰で形成され、褐色森林土、黒ボクとして農耕地に利用されています。特徴としましては、表土は風雨に弱く流出されやすく下流域に悪影響を与えることもあるだろうと予想されます。中には、自然由来の重金属含有の恐れもあります。なお、清里や長野県川上村では、レタスやキャベツ作りが盛んです。群馬県の嬭恋村でもレタス、キャベツ作りが盛んですが、群馬県の嬭恋村では一時集中豪雨によりキャベツ畑の土砂が流出して下流域に悪影響を及ぼしたことが数年前、10年程前に報道されています。なお、ここに

塩川ダムがありますけれども、塩川ダムでは、平成29年度、ヒ素が基準値0.01mg/Lを超えて検出されました。塩川ダムの貯水池に0.01mg/Lを上回るヒ素が流れてきてしまいました。こちらの八ヶ岳のほうも、同じ条件で、レタス畑、キャベツ畑があることによって、人工的な影響で恐らく農薬にヒ素も入っていますので、荒川ダムと同様に、大門ダムにもやがて流出して貯水池を汚染するのではないかと、さらに工事が進むことによって、さらに自然由来の重金属も懸念されるということが心配されます。

以上、私なりのこの北部区間の環境保全に対する意見を述べました。

「発生土の処理方法等について、改変面積や発生土量等について詳細な処理方法や運搬計画をとりまとめ、記載すること」また、「発生土置き場を設置する場合には、位置や規模、施設内容等を記載し、影響評価を行ってほしい」ということで公聴会に意見を提出しました。このようなことを準備書に記載してほしいと思っています。

以上、公述人7番からの説明です。